

わたしたちも応援しています。
地球環境基金

音楽のある場所にも「エコ」を!



早稲田大学学生環境NPO環境ロドリゲス
10期生: 上地君(U)、毛塚さん(K)、斉藤君(S)、橋本君(H)

「環境ロドリゲス」ってこんな団体

U: 環境ロドリゲスのメンバー (総勢約90名) って、理工学部と人間科学部の所属が多いよね?

H: そうだね、この4人で見ても、2人が理工学部に、1人が人間科学部生だしね。

K: この2つの学部って、環境系の授業があるし、やっぱり「環境」に関心のある学生が多いのかもね。その延長で、もっと積極的に環境活動をしたい人がここに集まっているんだろうね。

H: しかも、理工系は男子が多いから、ロドリゲスのメンバーも必然的に男が多い(笑)。

U: 前から思っていたんだけど、うちの団体の名前って変わっているよね、一度聞いたら忘れない名前かも。

K: 「ロドリゲス」の名前は、宝島伝説のあったマダガスカル島近くの小さな島(ロドリゲス島)からとって付けたいよね(*1)。

S: NPO 法人格を取得しているわけではないのに、社会貢献を意識した「NPO」を名乗っているところもうちの特徴だね。団体名の命名の件といい、創設者の理想と志の高さを感じるなあ〜。

「eco Live Music」で、エコに無関心な人にもエコ意識を!

S: 環境ロドリゲスの活動のいいところは、ごみ問題や環境教育、環境ビジネスとかアプローチの違う企画がいくつもあって、それぞれ興味のある企画に自由に参加できるところだよ。

H: メンバーがいろんな企画を提案できるのもいいよね。最近の企画で印象に残っているものって何?

U: 僕は、昨年10月に大隈講堂で開催した「eco Live Music」(*2)かな。早稲田大学の125周年学生賛同企画として参加したから、大学からの助成金も出たし、音楽イベント企画サークル(早稲田大学UBC)との合同企画でやれたし。手ごたえがすごく大きかった。

K: 私も! このライブでは、「<音楽>と<エコ>のコラボ」をテーマにしたけど、一

緒に関わったUBCのメンバーが「<エコ>と<音楽>という新しい考え方がすごく新鮮で、刺激になった」というところ嬉しかったな。一緒にやった団体も啓発できたんだあって。

S: ライブにいろんなエコ企画を盛り込んだから、お客さんからの反応も結構良かったよね。「発電マットの導入(*3)など、思わぬところに環境へのアプローチが取り入れられていて驚いた」とか、「開演前のスライドやパンフを見て、僕らが社会で活躍するときの地球を守っていくのは僕ら自身なんだと強く感じた」といった感想もあって、このイベントの趣旨を理解してもらえたんだなあ嬉しかったね。

U: 出演者の依頼交渉とか、企業や地域の商店街、OBへの協賛金のお願いや、普段はできない体験ができたよね。企画書を書いて企業のCSR担当者へFAXしたり、電話をかけた。企画からライブ開催までの期間が短かすぎて、残念ながら、企業からはほとんど反応が得られなかったけれど。

K: 結果的には何とかギリギリで赤字にならずに済んだからよかったんじゃない? (笑) 物品協賛として、複数の企業からエコバッグを提供してもらえたのもありがたかったよね。

U: 就職活動はまだ未経験だけど、きっとそれとはまた違う貴重な体験だったよね。

H: ロドリゲスの「eco Live Music」としては、これまで「リユースカップ」(*4)の導入実績はあったけど、ここまで大々的にエコを掲げたものは初めてだよ。参加者の反応にも手ごたえがあったし、「環境啓発」イベントとしてはうまくいったんじゃないかなあ。

S: このライブもそうだけど、「環境」をテーマに人や企業・団体との繋がりがもてたり、地域との関係性が築けるのは、ここで活動している醍醐味だね。

K: 環境ロドリゲスでいろんな活動をしていると、自分はこういうことに興味があったんだって新しい発見があったりして、いますごく充実しているな。学生を卒業したくないくらい(笑)。

(*1) ロドリゲス島と団体名の由来

<宝島伝説のあったロドリゲス島には、かつて財宝目当てに多くの人が押し寄せたため、島の動植物が食料にされ、次々に絶滅の危機に追いやられた。そのうち、今は絶滅してしまったドーデーという鳥の一種が最後までこの島に生息していたことが分かり、ドーデー鳥が暮らすことのできた豊かな自然こそがこの島の「宝」だったのだ>というストーリーにちなみ、豊かでかけがえのない自然や環境を大切に受け継いでいこう、という思いを込めて団体名が命名された。1997年12月、地球温暖化防止京都会議を受けて設立。

(*4) リユースカップ

洗って何度でも使いまわされるプラスチック製(ガラス製etc)のカップ。ライブハウスで一晩に出る紙コップごみの量は数十個~数百個とも言われているため、環境ロドリゲスの「eco Live Music」では、2005年夏から導入。



インタビューに答えてくださった「環境ロドリゲス」のメンバー。eco Live Musicの中核メンバーとしても活躍。



「eco Live Music」会場の外の様子。



「eco Live Music」概要 *2

◆来場者: 598人

◆コンセプト

「エコ×音楽」~(環境)に無関心から関心へ~

◆エココンテンツ

①問題を知らせる

- ・イベントのリーフレットに温暖化年表を掲載
- ・開演前、環境問題をテーマにした動画上映

②自分を知る

- ・エコ診断で参加者の生活スタイルと環境貢献度を診断

③自分に合った手段を知る

- ・環境活動を記載したエコリーフレットを配布
- ・エコ検定の紹介
- ・エコクイズ正解者にアーティストサイン入りエコバッグを贈呈

- ・出入り口に踏むと発電する「発電マット」導入 *3
- ・イベント終了後にエコバッグ50点を無償配布

④社会貢献

- ・来場者からのカンパの一部を地球環境基金に寄付
- ・会場内の音量を測定し、その値に応じた本数の木を植えるのに相当する金額を植林基金に寄付(首量植林)